

発議第 4 号

高齢者の医療費窓口負担の2倍化を中止し、「原則1割」の継続を求める意見書

上記の意見書を別紙のとおり提出します。

令和4年3月16日

提 出 者

八雲町議会議員 横 田 喜世志

賛 成 者

八雲町議会議員 佐 藤 智 子

八雲町議会議長 千 葉 隆 様

高齢者の医療費窓口負担の2倍化を中止し、「原則1割」の継続を求める意見書

75歳以上の医療費窓口負担を、単身世帯は年金を含めて年収200万円以上、複数世帯では合計320万円以上の370万人を対象に、現行の1割から2割に引き上げる医療制度改革法が昨年成立し、2022年10月1日から実施されることになった。

日本高齢期運動連絡会が昨年3月に公表した調査によれば、2割負担になったら「通院回数を減らす」「薬の飲み方を調整する」と、回答者の約3割が答えている。日本医師会も「後期高齢者は一人あたりの医療費が高いので、年収に対する患者一部負担の割合はすでに十分に高い。患者一部負担の引き上げによって、受診控えのおそれがある。また、たとえ受診したとしても、患者負担が重荷となり、必要な医療を遠慮する懸念がある」と述べている。

新型コロナウイルス感染拡大のため、すでに、受診抑制しているもとの、医療費の窓口負担が2割になれば、さらに受診抑制が広がり、物価高及び2022年に予定されている公的年金のさらなる引き下げ等を考えると、後期高齢者の健康状態は悪化の一途をたどることになる。

よって、国においては、高齢者に負担増を押し付ける計画を撤回し、医療費窓口負担の「原則1割」を継続するよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年3月16日

北海道二海郡八雲町議会議長 千葉 隆

【提出先】

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
厚生労働大臣
財務大臣
総務大臣